

## 行政評価事務事業一覧

### 【まちづくりの目標4\_都市基盤・防災・防犯・消防】

#### 施策 4-7\_消防体制の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
4-07-01	警防体制の充実	09018_01	消防自動車整備事業
4-07-01	警防体制の充実	09023_01	消防団詰所整備事業
4-07-01	警防体制の充実	09025_01	消防水利整備事業
4-07-01	警防体制の充実	09028_01	消防資機材整備
4-07-01	警防体制の充実	09065_01	別子山地区消防業務委託
4-07-01	警防体制の充実	09088_01	消防職員特別研修費
4-07-02	予防体制の充実	09083_01	高圧ガス保安対策推進費
4-07-03	救急救助体制の充実	09091_01	救急体制整備事業

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	09018_01		
事業名(行目名称)		消防自動車整備事業		消防自動車整備事業				
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防		施策				
	基本計画	警防体制の充実		担当課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民・消防団員・消防職員			数値	121,211人		
	手段(どうやって)	消防自動車整備計画に基づき、消防自動車の更新整備する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民が安心して生活できること目指し、複雑多様化する各種災害に対応するために最新鋭の消防自動車の更新整備を行い、車両のオートメーション化、軽量化が図られることにより、安全・確実・迅速に災害対応を実施することができる。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	消防自動車購入費 18,249千円×1台=18,249千円 99,660千円×1台=99,660千円 16,900千円×2台=37,180千円 新規登録手数料及び保険料 223千円 特別旅費 261千円		
経費		310,314	155,835	155,835	154,839			
財源	県・国支出金	16,832	0	0	0			
	地方債	282,600	120,800	120,800	119,400			
	その他	0	0	0	0			
一般財源		10,882	35,035	35,035	35,439			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
消防自動車更新台数(台)			目標値	5	3	4	4	1
			実績	5	3	0	4	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
車両安全対策装備の義務化や免許制度の改正に伴い、消防車両の仕様について今後も見直しを行いながら対応していく。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
有利な財政措置を担当部局と継続検討しながら、今年度と同様に消防自動車整備計画に基づき実施する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
老朽化した消防自動車を計画的に更新整備したことにより、複雑多様化する各種災害に備えて初動体制が強化され、迅速かつ的確な消防活動の確保が図られた。今後においても、国や県の補助事業等の動向を注視し、市民の安心した生活の一助となるよう、消防自動車整備計画に基づく事業の推進を目指す。								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	09023_01		
事業名(行目名称)		消防分団詰所整備事業	細事業名	消防団詰所整備事業			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	消防体制の充実			
	基本計画	警防体制の充実	担当課	消防総務課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	消防団詰所	数値	24詰所			
	手段(どうやって)	新居浜市アセットマネジメント推進基本方針に基づく長寿命化改修工事を計画的に実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民の安心・安全を守る身近な防災拠点としての性能が確保できる施設整備を推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		35,078	58,737	58,737	45,619	委託料 アスベスト調査委託料 100千円 改修外部設計委託料 1,790千円 工事費 詰所改修工事費4詰所 56,847千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	26,100	43,900	43,900	34,100		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	8,978	14,837	14,837	11,519		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
改修工事施工率(%) (工事施工詰所数/施工計画詰所数)		目標値	100	100	100	100	100
		実績	100	100	50	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>地域防災活動拠点施設である消防団詰所は、建設後、相当年数を経過している施設が多く、老朽化が著しい状況であるため、今後も新居浜市アセットマネジメント推進基本方針に基づき長寿命化工事を図りながら、大規模改修工事や設備機能回復工事を実施していくことで、施設の長寿命化及び適正な維持管理が可能となる。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>今後も新居浜市アセットマネジメント推進基本方針に基づき計画的に施設整備を実施していくが、整備詰所数及び工事内容により事業費は年度ごとに流動的となる見込みである。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>各地域における最前線の災害活動拠点施設である消防団詰所を有効活用するためには、引き続き新居浜市アセットマネジメント推進基本方針に基づき長寿命化を図りながら、併せて設備機器等の老朽化に対しては、大規模改修工事など計画的に実施し、機能回復に努めていくことが必要である。</p>							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	09025_01	
事業名(行目名称)		消防水利整備事業	細事業名	消防水利整備事業		
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	消防体制の充実		
	基本計画	警防体制の充実	担当課	警防課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民・消防団員・消防職員		数値	121,211人	
	手段(どうやって)	消防職員・消防団員等による地水利調査の報告に基づき、消防水利の補修等を行う。また、水道局が実施している水道配水管工事に伴う分担金を支出し、消防水利の新設・移設等を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	消防水利は消防用機械器具とともに、消防機関が消火活動を行う上で最も重要なものであるため、消防水利不足地域への消防水利の設置並びに宅地造成・道路拡張工事に伴う消防活動上有効な消防水利の設置、また消防水利の補修を計画的に実施し、消防水利の確保と維持管理をする。				
III 投入費用						
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		8,866	3,143	4,953	4,665	
財源	県・国支出金	0	0	0	0	消防水利補修費 2,060千円
	地方債		0	0		水道配水管工事に伴う消防分担金 1,000千円
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	8,866	3,143	4,953	4,665	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度
水利設置数(基)		目標値	17	17	17	17
		実績	25	10	1	7
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			
今年度は、水道局への分担金が減少したが、今後は費用負担が増加すると思われる。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
消防分担金は、例年実績に応じた補正対応を行っているため当初予算についての変更はありません。補修については、水利施設の老朽化が進行している中で計画的に実施していく。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当			
水道局への水道配水管工事に伴う分担金の支出により、移設消火栓3基、防火水槽切込1カ所の設置を行った。今年度は、水道局からの依頼件数が少なく目標の設置件数には届かなかったが、来年度以降は県道の拡張工事や、国道バイパス及び上部東西線の延伸により設置件数が増加が見込まれる。また、水利補修は7カ所を実施し計画的に整備事業が行えた。						

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	09028_01		
事業名(行目名称)		消防資機材整備費	細事業名	消防資機材整備			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	消防体制の充実			
	基本計画	警防体制の充実	担当課	警防課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民・消防職員	数値	121,211人			
	手段(どうやって)	年次計画に基づき消防資機材の更新整備					
	目的(どんな状態にしたいのか)	消防資機材の維持管理を図るため、点検・整備を実施することにより、更新年限までの間、資機材の機能低下を防ぐことを目的とする。また、更新計画の見直しを図り、優先的な資機材を更新整備する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		6,690	8,191	8,191	8,127	消防資機材購入費 8,191千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	6,690	8,191	8,191	8,127		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
消防資機材更新率(%)		目標値	100	100	50	100	100
		実績	100	100	40	100	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
消防資機材のガイドラインの見直しにより、資機材の安全性及び機能性の向上が求められている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
年次計画の見直しを適時確実にを行い、優先的な消防資機材の更新整備を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
消防資機材整備計画に基づく各種資機材の更新及び補充を行うことで、各種災害に対する消防力強化が図られた。今後においても、消防資機材を適正管理しながら、老朽化した資機材の更新を実施し、災害対応力の向上を目指す。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	09065_01		
事業名(行目名称)		別子山地区消防業務委託費	細事業名	別子山地区消防業務委託			
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	消防体制の充実			
	基本計画	警防体制の充実	担当課	消防総務課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区住民	数値	129人			
	手段(どうやって)	四国中央市消防本部に救急業務及び消防業務を委託する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区の消防・救急業務における初動体制を充実させ、被害の軽減を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		21,100	21,100	21,100	21,100	委託料 消防業務委託料 21,100千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	21,100	21,100	21,100	21,100		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
災害覚知から現場到着に要する時間(平均)		目標値	28	28	28	28	28
		実績	24	26	27	31	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
別子山地区住民の安全・安心を守るためには、消防・救急業務における初動体制の充実を確立させる必要があり、そのためには、引き続き四国中央市へ消防・救急業務の一部を委託することが適切である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地区の消防・救急体制維持のため、引き続き業務を四国中央市に委託する必要がある。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
別子山地区住民の安定かつ迅速な消防、救急及び救助活動を提供維持するためには、引き続き四国中央市へ業務委託することが必要であり、コスト的にも業務委託する方がメリットがある。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	09088_01	
事業名(行目名称)		消防職員特別研修費		消防職員特別研修費			
総合 計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防		施策			
	基本計画	警防体制の充実		担当課			
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対象(誰・何を)	消防吏員			数値	140人	
	手段 (どうやって)	消防学校等教育機関に入校					
	目的 (どんな状態にしたいのか)	市民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適正に行うため必要な知識、技術及び資格を習得させる。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		7,817	10,883	10,883	9,273		
財源	県・国支出金	0	0	0	0	特別旅費 3,427千円 需用費 1,460千円 役務費 64千円 負担金 5,923千円 公課費 9千円	
	地方債		0	0			
	その他	838	904	904	821		
	一般財源	6,979	9,979	9,979	8,452		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
計画している研修等への派遣率(%)			目標値	100	100	100	100
			実績	100	85	50	100
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
愛媛県消防学校初任教育・予防査察科・初級幹部科、救急救命士養成研修、潜水技術研修等へ職員を派遣しており、知識技能の修得、体力の錬成、規律の保持などを通じて能率的に職務を遂行し得る有能な消防人の育成が実施できている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
災害の多様化・大規模化に的確に対応するためには、消防職員の育成は必要不可欠であり、災害対応に必要な知識及び技能の修得を図るため、引き続き教育機関及び専門機関等への研修派遣を実施していく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当			
新型コロナウイルス感染症対策により中止となった研修があるが、消防職員としての職責や使命を果たすために必要な知識や技能を修得することを目的として、今後も専門的な教育機関等への研修派遣の継続は必要である。また、適正かつ効率的な人材育成を行うために計画性を持った派遣研修を実施する。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	09083_01	
事業名(行目名称)		高圧ガス保安対策推進費		細事業名 高圧ガス保安対策推進費			
総合 計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防		施策 消防体制の充実			
	基本計画	予防体制の充実		担当課 予防課			
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	高圧ガス製造等事業者、液化石油ガス販売事業者等のうち対象事業者			数値	129事業者	
	手 段 (どうやって)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・許認可申請に係る審査や検査、違反是正を適正に行える担当職員を養成する研修等への出席</li> <li>・事務処理マニュアル等の作成</li> <li>・対象施設の実態を把握するための保安及び立入検査の実施</li> <li>・施設台帳等の管理システムの構築</li> </ul>					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職員の育成</li> <li>・審査・検査体制の構築</li> </ul>					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		13,305	13,525	13,525	13,462		
財 源	県・国支出金	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅費 264千円</li> <li>・出席負担金 28千円</li> <li>・需用費(図書費等) 209千円</li> <li>・需用費(器具修繕費) 47千円</li> <li>・備品購入費 22千円</li> <li>・委託料 12,955千円</li> </ul>	
	地方債		0	0			
	その他	13,305	13,525	13,525	13,462		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
事故件数			目標値	0	0	0	0
			実績	0	1	2	4
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
コロナ禍により、各種研修等は制限がある中で実施されており、オンラインによる会議や研修を主として、幅広い知識や技術を身につけるための機会を確保できているが、現状では実地での研修参加は難しい状況である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
スマート保安の促進や水素社会の実現等のため、規制の合理化が図られるなど、今後は法令等の改正頻度が多くなることが予測される。規制する側として、それらに対応していくためには、各種研修等への出席や改訂された法令集等の購入などにより最新の知識の取得が不可欠であることから、継続して多くの研修・会議等に参加する機会を確保し、保安レベルの維持・向上に努める。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当			
主にオンラインによる研修等により専門的知識の習得の機会を確保し、許認可及び検査体制の維持に努めることができた。今後も高圧ガス保安行政の動向は新たな制度の創設や規制の合理化等、大きな変化を伴うことが予想される。引き続き研修等の機会を確保して常に最新の知識・情報を入手し、業務に活用していくのはもちろんのこと、コロナ禍における効率的・効果的な検査体制についても検討しながら、保安レベルの持続的な向上に努めていく。							



## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	09091_01			
事業名(行目名称)		救急体制整備費	細事業名	救急体制整備事業				
総合計画	まちづくり	都市基盤・防災・防犯・消防	施策	消防体制の充実				
	基本計画	救急救助体制の充実	担当課	警防課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	救急救命士(実働)		数値	28人			
	手段(どうやって)	現在まで本消防として、プレホスピタル・ケアの充実強化に向け次のとおり取り組んでいる。1. 事後検証の実施 県MC体制検討委員会から定められた救急事案について検証医師が救急活動の検証を行い、その結果を救急救命士の資質向上に役立て、また本市・地域での症例検討会を実施し今後の救急活動に活かす。2. 再教育の実施 県MC体制検討委員会から定められた再教育ポイントの取得を目指す病院実習で48ポイント、学術集会・研修会、実技技能教育(JPTEC,ICLSなど)、症例検討会・勉強会等で80ポイント以上を取得する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	日毎に高度化する救急医療への対応と応急処置の更なる質の向上を図るための再教育を実施し、また気管挿管や薬剤投与の高度救命処置を実践できる救急救命士を多数育成する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,684	2,003	2,003	1,855	救急救命士実習委託料 事後検証 1千5百円×150件 225千円 病院実習(再教育等) 1,192千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0	手数料 予防接種 150千円		
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0	負担金補助 東予地域メディカル推進検討会負担金 305千円		
	一般財源	1,684	2,003	2,003	1,855			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
気管挿管認定救急救命士(気管挿)			目標値	3	3	3	3	3
			実績	0	3	1	3	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
委託料の気管挿管については、指導医師と連携を計りながら実施されるため中間値としては妥当な状況である。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
高度化(コロナ対応含む)する救急救命処置を適切に実施できる救急救命士を育成し救命率の向上を図るため現状維持が妥当である。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
救命率の向上を実施するために必要な高度救命処置の一つで気管挿管については、計画的に救急救命士を派遣し育成することが重要である。このことから、今後も計画的に事業を進めることが適当である。								